

私のふくい探訪

## 福井も

「内なる  
グローバル化」  
の推進を

5月の連休に帰郷した際、鯖江のうるしの里会館、一乗谷の朝倉氏遺跡、若狭の縄文博物館や鯖街道に関連する名所を訪ねて訪れてみた。4月に発表された日本遺産のひとつとして「御食国若狭と鯖街道」が選ばれ、また連休中で天候にも恵まれていたにもかかわらず、来訪者の数は期待していたほどには多くなかった。

私の感覚で恐縮であるが、郷土福井が持っているこれらの素晴らしい歴史・文化・観光資源を、明日の福井の発展に向け

て積極的に活用していこうという熱い思いや戦略が個々の施設から十分には伝わってこなかった。福井は恵まれた県でありそんな必然性がなかったということであろうが、これらの観光資源は愛情をもって磨き上げれば益々素晴らしいものになるはずであり、もっと顧客(観光客)の目線から色々と知恵を絞る余地があるのではないかと感じた。

私は日本経済の活性化や地方創生を進めるにあたって、日本はもっと「内なるグローバ

ル化」を推進していく必要があると考えている。日本はこれまで企業の海外進出など、外へのグローバル化はそれなりにやってきたが、海外から企業や人材を受け入れる動きは諸外国に比べて大幅に遅れている。最近ではビザの緩和や円安の効果によって訪日外国人旅行者数は急増しており、昨年は1300万人を突破したが、それでも世界では20位程度であり、1位のフランスと比べると1/6程度である。日本の豊かな観光資源が

もつ潜在力からすれば、まだまだ物足りないといえよう。

この状況は福井にも共通する面がある。福井県は出生率、世帯収入、就業率、子供の学力・運動能力、医療・福利厚生、安全面などがいずれも全国トップクラスに位置し、その住環境の良さから幸福度No.1として知られている。また、豊富な農林水産資源や、繊維・眼鏡・電子機器などの競争力のある産業が集積しているにもかかわらず、県外からの転入者数では福井県は47都道府県の中で最下位だと聞くと、信じられない思いがする。

社会構造が大きく変化する中、あらためて郷土が持っている観光・歴史・文化・人などの全ての資源を整理し、みんなで知恵を出し合い、自らが県の未来を切り開く意気を持って進んでいこうではありませんか。



伊藤忠商事株式会社 取締役会長

## 小林 栄三

1949年福井県生まれ。1972年大阪大学基礎工学部卒業後、伊藤忠商事(株)入社。同社の情報産業部門においてIT革命を牽引。2004年同社社長、2010年より現職。2014年より商社の業界団体である日本貿易会会長も務める。

## エネルギーとこと

地球環境にとって温室効果ガス(CO2)の削減は待ったなしの課題です。本年11月のCOP21(パリ)に向け、エネルギーミックスと整合性がとれ、国際的にも遜色のない削減目標を示す必要があります。

福井県経済団体連合会 会長 川田 建男

福井県環境・エネルギー懇話会  
〒918-8004 福井市西木田 2-8-1  
福井商工会議所ビル 6F

▶バックナンバーはコチラから

福井県環境・エネルギー懇話会 検索

次回掲載は

坂田 東一氏 6月10日(水)掲載予定

※掲載日は前後する場合がございます。ご了承ください。